



松澤莊總鎮守

熊野神社由緒略記

千葉県旭市清和乙（松澤）鎮座

鎮座地 千葉県旭市清和乙（松澤）七百十五番地

祭神 速玉之男命はやたまのおのみこと 伊邪那美命いざなみのみこと 事解之男命ことわかのおのみこと

神紋 九曜（月星） 旧社格 郷社 明治六年四月一日列格

由緒及び沿革

平城天皇の御代大同元年（八〇六年）神託ありて東国開発の守護神として紀国熊野に坐す大神の御分霊を三川浦（旭市）に奉祀す。降つて、村上天皇の御代天曆九乙卯年（九五五年）再び神のお告げにより仁良（香取市）を経て旧九月五日当所に奉斎す。

古来より松澤荘の総鎮守として靈験著しく、殊に豊年・大漁・安産・開運・出世の神として氏子は元より朝廷を始め武門衆庶の崇敬厚く、且て治承四年源頼朝の挙兵に応じた千葉介常胤深く当社を信仰し、出陣にあたり戦勝を祈願し、度々の軍功により下総の太守に任ぜられるや、破損せる当社の再建を鎌倉幕府に奏上す。頼朝公当社の御神威の赫赫たるを見て建久元年七月松澤荘一円を神領として奉納し社殿を造営す。

次いで後鳥羽天皇の御代建久五年九月五日長くも勅使下り「正一位熊野三所大権現」の称号を贈られ、以来神官四十二名を置き祭典莊嚴を極めしと云う。

千葉氏又当社を祈願所として数々の神宝を寄進し、更に横領されし神領を奪回し社殿を造営す。

以来千葉氏の物心両面にわたる奉養に因り神紋を九曜と定む。

降って徳川氏江戸に幕府を開き天正十九年より安政二年に至る間、家康公を始め十代家治公まで歴代の將軍より神領並びに宝物を寄進せられし等宏壮なる社殿と相まって東総屈指の大社とし又松澤の権現様として世に親しまれてきた。

明治六年郷社に列し昭和五十三年六月千葉県神社庁より規範神社に指定された。

尚当社は延宝八年及び昭和四十三年不慮の火災により全焼し現在の社殿は昭和四十四年にその他の建造物は五十五年迄に再建され農村公園を始め各種の工作物を整備し現在に至っている。

年中祭典及び行事

一月一日 初詣（三ヶ日）新年互礼会

〃 お目覚祭 新年始めて楽を奉し扉を開き一年の安泰を祈願する。（当日は七日）
（熊野本宮大社においては当日八咫烏神事へ宝印神事へが斎行されている。）

〃 火伏鎮火祭 庭上に於て松明に燃え盛る悪火を神刀により三度切放ち鎮火する。
十四日 夜々十五日早朝 筒粥の神事 香取市仁良に鎮座する休熊野神社の手洗池に生うる片葉の葦（十九本）に入る粥の多少により農作物の豊凶を卜う。（現在休止中）

二月三日 節分祭

十一日 奉射祭

十七日 祈年祭

三月二十日 大御饌祭並びに講社祭 県指定の神楽を奉納する。（戦前は三日間行う）

四月上旬 お田植祭 早苗になぞらいた榎の小枝を用い庭上において行う。（市指定文化財）

七月下旬 境外社 葉祖大神の夏祭（祇園祭）

〃 大井戸の清祓い

十月上旬 例大祭 卯年以外は鳥居先までの神幸祭を行う。

十二月十三日 新嘗祭

十二月三十日 大祓祭

卯年毎の神幸祭 天曆九乙卯年の御遷座を記念して行われる三川浦への御神幸は二市一町に及ぶ広汎な神幸路を鳳輦を中心に宮前八幡宮、南堀之内の宇賀・初内両社を随い神官・旧縁故者を始め大祭委員長以下役員公職者並びに輿舁連と市の無形文化財に指定されている大名行列・下座手踊・山車等一千数百名の氏子崇敬者が供奉し、沿道信仰者の熱烈な奉迎裡に各地に設けられた番所(昔の関所)において歌舞伎の所作を模した使者の応答後、それぐの芸を披露し又特殊神事を齋行しつつ数十万の観衆が見守る中、三川浦(九十九里浜)にお浜下りをする徹宵三々四日間にあたる豪華絢爛たる一大神事である。

熊野神社の七不思議

- 一、御手洗池の清泉
いかなる嚴寒にも凍らず、旱魃にも涸れず、いつでも清冽な清水が湧き出ている。
- 二、楠の寄生木 楠の巨木に榊が寄生する。
- 三、挿木の松(祝の松とも云う) 正月に挿した門松 現在は二代目
- 四、片葉の葦 香取市仁良に鎮座する休権現の御手洗池に生いている。
- 五、女男石 酒呑石又は縁結びの石とも云われている、陰陽二ケの神石。
- 六、女鳥
- 七、白蛇の化石

松澤八景

- 一、熊野神社の曙（松澤）
- 二、八石の花（長部）
- 三、永命寺の晚鐘（諸徳寺）
- 四、新川の五月雨（入野）
- 五、米込の落雁（米込）
- 六、天神山の秋月（南堀之内）
- 七、羽黒山の夕映（松澤）
- 八、松澤原の晚雪（松澤）

其の他

当社の境内に安置されている女男石は酒飲石又は縁結びの石として有名で、又お田植の神事と神幸祭における使者の所作並びに去る昭和四十三年の火災の折猛火に包まれ乍ら奇蹟的に難をまぬかれた大杉と共に市文化財に、又、古式床しい神楽は県無形民俗文化財に指定されている。